

放課後等デイサービス自己評価表【事業所向け】

令和6年9月実施

		チェック項目	はい	どちら でもない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	2	職員の配置数は適切であるか	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			運動療育と机上療育の教室移動をスムーズにできるよう時間設定をより徹底する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			定期的に職員間でのミーティングを実施。全員が参画できるよう事前告知をしていく。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			毎年保護者向けに事業所評価を実施。頂いたご意見等については全て公表し真摯に課題として受け止め早期に改善できるように対策を立案、実践できるよう取り組む。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		現在第三者評価については実施しておらず。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			全職員に対し採用時研修を実施。また月に1回全スタッフを対象とした社内研修を実施。必要に応じて外部研修等にも積極的に参加している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			
適切な 支援の 提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			全児童にKIDS、SSP(感覚プロファイル)を使用しそれぞれの発達段階、感覚過敏等のアセスメントを行い個別に適した環境やプログラムの提供を行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細かに設定して支援しているか。	○			長期休暇については宿題の進捗状況確認や、宿題内容の相談や解説を実施。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			現在個別活動を主としており、発達段階やニーズ等に合わせて可能な際は2~4名の小集団での活動を「始まりと終わりの会」を含め実施している。5名以上の集団活動については現在行っていない。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			基本的に個別療育を担当制で実施しており、担当が変更になる場合等においては計画書をもとに現在の課題と実施プログラムの申し合わせ目標の確認を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			必要に応じて不適応行動等やリスク(危険行為)があった際は職員間で共有を行い、リスクマネジメントにも取り組んでいる。
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			支援計画に沿って実施したプログラム内容及び、プログラム実施時の様子については毎回記録をとり(写真での記録含む)保護者様へ報告を行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			定期モニタリングに加え、随時モニタリングを実施し計画途中であっても見直しの必要性がある場合においては計画を更新するよう努めている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか。	○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児童発達管理責任者、指導担当者に加え、社会福祉士、言語聴覚士等の専門職も必要に応じカンファレンスに参加し検討を行っている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、こどもの主治医等と連絡体制を整えているか。	○		現在医療的ケアが必要な児童の受入れがなく実施していないが、方針として子どもたちが関わる各関係機関(医療機関含む)との連携は必須であると考えている為、受入れの際はしっかりと連携していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で、支援内容の情報共有と相互理解に努めているか。	○		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	○		神奈川県地域子育て支援へお困りの保護者様などとの交流も含め積極的に参加予定。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか。	○		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○	自社のみで解決せず、関係各所への相談やアドバイスを頂戴する努力を実施。
	28	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		○	連絡システムの中で、当日にあったケース事例をもとに対応策を表記。その他、研修等については現在企画中。
保護者への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		運営規程は面談室に誰でも閲覧できるように設置。また契約時や問い合わせの際には随時説明を実施している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		定期的に各保護者様と面談を実施し、随時生活課題やニーズ、お悩みについて確認を行い、必要に応じて助言や支援を実施。また保護者様からもアドバイスを頂くなどお互いに協力し合う姿勢で支援を心掛けている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		オンラインでの保護者交流会の実施を今後予定する。
	33	子どもや保護者から苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		定期的な面談と併せて、保護者様からの申し出等があった際には随時面談を実施して対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		連絡システムを活用し活動トピックスなどを通して、事業所の活動内容をお伝えしている。また紙面での広報誌を作成しその中で子育て相談室というお悩みに対してのアドバイスを実施している。
	35	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		個人情報の施錠管理から各スタッフへの守秘義務の徹底を図っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		伝達方法はそれぞれの伝わりやすい方法、(電話、口頭報告、書面、メール、連絡システム)から選択し実施している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			職員に対する研修等や訓練はしっかりと行っており、保護者様へは契約時などにお伝えしている。 マニュアル内容について定期的にリニューアルを実施予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			採用時と年に1回全スタッフを対象として実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			身体拘束ゼロを指針としており、やむを得ない状況等も含めて現状対象者なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			現時点で該当の子どもは利用がないが、柔和に対応できるようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			事業所内、教室間で共有できるようシステムを統一。